

# 令和5年度知床地区国有林 エゾシカ誘引捕獲等事業（くくりワナ） 報告書



令和6年3月

北海道森林管理局



## 目次

報告書概要.....	1
1. はじめに.....	5
2. 業務の実施方法.....	6
2-1. 業務手法の概要.....	6
2-2. 事業の実施場所及びわなの稼働状況.....	7
2-3. くくりわなによる捕獲の実施方法（詳細）.....	12
3. 業務実施結果.....	16
4. 考察.....	20
4-1. くくりわなについて、より効果的に捕獲を行うための課題と解決策.....	20
4-2. 次年度以降の捕獲計画に関する課題、提案.....	24
参考文献.....	26
作業実施状況等の記録写真（抜粋）.....	27



## 報告書概要

### 1. 業務名

令和5年度知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（くくりワナ）

### 2. 業務の背景・目的

本事業は、知床半島に高密度で生息するエゾシカの採食圧により、森林の多面的機能の発揮等に対する多大な影響が懸念されるため、エゾシカの個体数の調整を図り、森林被害を低減することを目的とする。

また本事業は、関係機関により策定された「第4期知床半島エゾシカ管理計画」における知床世界自然遺産の隣接地域の管理の一環として、「知床世界自然遺産地域科学委員会」およびその下部組織である「エゾシカワーキンググループ」等での助言を踏まえて実施されるものである。事業実施地域におけるエゾシカの生息状況等を把握するとともに、捕獲手法について検証し、次年度以降の捕獲計画に資することとする。

### 3. 業務の実施体制

本業務は、林野庁北海道森林管理局からの委託事業として公益財団法人 知床財団が実施した。

- ・実施期間：令和5年12月1日（着手12月11日）～令和6年3月8日  
ただし、わなの設置箇所によって誘引捕獲期間は異なる。
- ・捕獲範囲：斜里郡斜里町 網走南部森林管理署管内 1376, 1377 林班  
（オシンコシン、ウトロ東ほか）－図 1-1 参照  
目梨郡羅臼町 根釧東部森林管理署管内 204, 208, 209 林班  
（春苺古丹）－図 1-2 参照
- ・捕獲目標頭数：80 頭（うち斜里町 60 頭、羅臼町 20 頭）
- ・実施体制：事業管理責任者 金川 晃大（公益財団法人知床財団事業部保護管理事業係長）  
ほか計 21 名により実施。うち捕獲従事者 13 名、作業従事者 8 名。

#### 4. 業務の手法・概要

令和 6（2024）年 1 月 4 日～令和 6（2024）年 2 月 9 日に、くくりわな 60 基（斜里町側 40 基、羅臼町側 20 基）によるエゾシカの捕獲を実施した。また自動撮影カメラ（計 20 台）の設置により、エゾシカの生息状況等を把握した。なお、羅臼側の春苺古丹は餌による誘引及びカメラの設置のみ令和 5（2023）年 12 月 11 日に先行して開始した。斜里町側の業務実施場所については、捕獲作業効率化のため便宜的にウトロ東（A,E,F）、オシンコシン（B,C）、弁財（G）の 3 地区に区分した。なお、捕獲を実施した期間には、荒天の影響等で捕獲を一時停止した日を含む。

##### ・業務場所別の誘引捕獲期間：

ウトロ東ほか（斜里町）	1 月 4 日～ 2 月 9 日 ※1
春苺古丹（羅臼町）	1 月 4 日～ 2 月 9 日 ※1

※1 実施場所付近におけるヒグマの活動の有無の調査、荒天による捕獲作業の一時停止日を含む。

##### ・捕獲したエゾシカに関する記録：

全個体について性別、年齢の簡易的区分（0 歳, 1 歳以上）、後足長、処理方法（電気もしくは銃による止めさし後施設処理）、処理先（利活用施設名または利活用不適のため廃棄）を記録した。その他にも可能な範囲でオスの場合は角尖数を個体ごとに記録した。

#### 5. 実施結果（準備から完了まで）

令和 5 年 11 月 30 日付けで委託契約を締結後、同年 12 月 5 日に委託事業計画書等を提出した。その後必要な物品の購入手続きや捕獲許可申請のための従事者名簿作成等の準備作業を行った。また、12 月 11 日に貸与品一式の支給を受け、事業に着手した。

令和 5 年 12 月 11 日に春苺古丹でカメラの設置及び誘引を開始し、令和 6 年 1 月 4 日から全ての地区でくくりわなの誘引・捕獲作業を順次開始した。捕獲作業は 2 月 9 日にすべて終了し、その後速やかにくくりわな等を撤去した。

本事業により斜里町側で 55 頭、羅臼町側で 18 頭の合計 73 頭のエゾシカを捕獲した。雌雄別の内訳はメス 34 頭・オス 39 頭であり、生息個体数を確実に減少させるために重要とされるメス成獣の捕獲数は 19 頭（26.0％）であった。地区別の捕獲数等は、後記の表 A のとおりである。

表 A. 本事業で捕獲したエゾシカの内訳

捕獲実施場所 (地区名)	捕獲個体内訳				合計
	メス 成獣	0歳		オス 成獣	
		メス	オス		
①ウトロ東A	4	2	0	3	9
②ウトロ東E	0	1	1	2	4
③ウトロ東F	3	1	2	4	10
④オシンコシンB	6	3	3	3	15
⑤オシンコシンC	4	4	1	8	17
⑥弁財G	0	0	0	0	0
⑦春苧古丹	2	4	5	7	18
合計	19	15	12	27	73

※地区名のアルファベットは捕獲したエゾシカを地区別にマーキングするために付したものの

くくりわなによる捕獲回数は、斜里町側（ウトロ東ほか）55回、羅臼町側18回の計73回であった。

捕獲個体の処理方法は、主に電気による止めさし後の利活用施設処理が59頭、利活用不適のため廃棄が2頭、利活用施設受け入れ不可のため廃棄が12頭であった。

エゾシカの誘引用の餌には圧縮マメ科牧草（ルーサンヘイバール）を使用した。原則24個単位での販売のため、72個を購入し、うち60個（斜里側32個・羅臼側28個）を給餌して消費した。なお、見回り・給餌回数は表B-1、B-2のとおりである。

表 B-1. 本事業における春苺古丹の誘引のみの期間及び給餌回数の実績値

誘引箇所	誘引期間	見回り回数	給餌回数
春苺古丹	12月11日～12月26日	9	8

表 B-2. 本事業における各わなの見回り・給餌回数の実績値

設置箇所	誘引捕獲期間	見回り回数	給餌回数
ウト口東ほか	1月4日～2月9日	32	29
春苺古丹	1月4日～2月9日	32	20



## 1. はじめに

知床半島にはエゾシカが高密度で生息しており、平成 17（2005）年の世界自然遺産地域への登録後は、エゾシカの採食圧による環境への影響を緩和すべく、知床世界自然遺産地域科学委員会エゾシカワーキンググループ等における議論を受けて、各行政機関が半島内各地で個体数調整事業を実施している。国立公園内（遺産地域内）においては、環境省が平成 21（2009）年から個体数調整事業を行っている。

北海道森林管理局では、平成 22～24（2010～2012）年度に半島東側の春荊古丹地区で捕獲事業を実施し、平成 25（2013）年度からは半島西側の遺産地域に隣接するウトロ地区での捕獲事業を開始した。さらに平成 26（2014）年度から遠音別地区および真鯉地区においても捕獲事業を開始した。また平成 29（2017）年度には 5 年ぶりに春荊古丹地区での捕獲を実施し、本年度で再開 7 年目となる。

本事業は、知床半島に高密度で生息するエゾシカの採食圧により、森林の多面的機能の発揮等に対する多大な影響が懸念されるため、エゾシカの個体数の調整を図り、森林被害を低減することを目的とする。本年度の捕獲にあたっては、エゾシカ 80 頭（うち斜里町 60 頭、羅臼町 20 頭）を捕獲目標頭数とした。また本事業は、関係機関により策定された「第 4 期知床半島エゾシカ管理計画」における隣接地域の管理の一環として、「知床世界自然遺産地域科学委員会」およびその下部組織である「エゾシカワーキンググループ」等での助言を踏まえて実施されるものである。事業実施地域におけるエゾシカの生息状況等を把握するとともに、捕獲手法について検証し、次年度以降の捕獲計画に資することとする。

## 2. 業務の実施方法

### 2-1. 業務手法の概要

本事業では、令和6（2024）年1月4日から2月9日までの期間にくくりわなによるエゾシカの誘引捕獲作業を実施した。作業内容はエゾシカの痕跡や発見状況等とともに毎回記録し、業務日誌等を作成した。本事業全体の実施工程は表1に示した。

業務への従事にあたっては、捕獲従事者13名および作業従事者8名のローテーションにより、常に複数人（原則1チーム2～4名）で捕獲等の作業を実施できる体制を確保した。また作業を安全に進めるため、安全管理規定および緊急連絡体制図を定め、業務実施期間中に適宜確認した。

本事業で捕獲されたエゾシカは、斜里町側では北海道が認証する「エゾシカ肉処理施設」の1つである株式会社知床エゾシカファーム（所在地：斜里町）、羅臼町側ではエゾシカ肉をペットフードに加工している株式会社IN-U（所在地：中標津町）に原則として引き渡し、適切な利活用（有効活用）を行った（以下、株式会社知床エゾシカファームおよび株式会社IN-Uを「利活用施設」とする）。くくりわなによる捕獲個体が既に死亡していた場合や、利活用施設の休業などで捕獲個体を利活用に供することができない場合は、一時保管後に廃棄物として運搬し、処理事業者（株式会社北海道プロテイン、北海レンダリング協同組合）に引き渡し、有償にて適正な処理を依頼した。これは斜里町および羅臼町の廃棄物処理施設では、シカの死体を処理出来ないためである。

また、各わなの設置箇所周辺には自動撮影カメラ（機種名：ハイクカム SP108-J または同 SP2, 同 LT4G/販売元：株式会社ハイク、北海道旭川市）計20台を設置し、エゾシカの生息状況の把握に努めた。

なお、各業務については、知床森林生態系保全センターの監督職員（以下、監督職員とする）と随時協議を行いながら進行した。

表 1. 本事業の実施工程表

わな名	作業内容	11月	12月	1月	2月	3月
ウトロ東ほか くくりわな	センサーカメラの 設置期間			←→		
	見回り・給餌・ 捕獲			←→		
春茹古丹 くくりわな	センサーカメラの設 置及び給餌期間		←→			
	見回り・給餌・ 捕獲			←→		
	報告書作成				←→	

## 2-2. 事業の実施場所及びわなの稼働状況

本事業におけるエゾシカ捕獲作業の実施場所は、知床半島の西側に位置する北海道斜里郡斜里町の国有林（網走南部森林管理署管内 1376、1377 林班）および同半島東側の北海道目梨郡羅臼町の国有林（根釧東部森林管理署管内 204、208、209 林班）であり、図 1-1 および 1-2 に示したとおりである。また、この地域は関係行政機関によって策定された「第 4 期知床半島エゾシカ管理計画」において「隣接地域」に区分されている（図 2）。斜里町側の国有林 1376 林班と 1377 林班は、国指定鳥獣保護区内であるため狩猟は行われていないが、隣接するエリアでは狩猟や他事業によるエゾシカの管理捕獲が行われている。なお、羅臼町側の国有林（204、208、209 林班）の一部は可猟区であり、残りは可猟区に囲まれた保護林となっている。

上記の事業実施場所は、大きく分けてウトロ東地区、オシンコシン地区、春茹古丹の 3 地区に、斜里町側はさらにウトロ東 A, E, F とオシンコシン B, C、弁財 G に細分化した。ウトロ東 A では 5～8 基、ウトロ東 E では 5 基、ウトロ東 F では 7～10 基、オシンコシン B では 6～10 基、オシンコシン C では 10～15 基、弁財 G では 4 基、春茹古丹で 20 基のくくりわなを稼働させ、エゾシカの捕獲を実施した（表 2）。なお、春茹古丹川右岸においては、希少猛禽類への影響を考慮し、捕獲作業を実施しなかった。

くくりわな計 60 基は、エゾシカの生息状況や捕獲状況に合わせて適宜移設した（表 2、図 3～5）。また、監督職員と協議の上、くくりわなの見回りは土曜日と日曜日にも実施することとし、わなの稼働を止めることなく捕獲を継続するスケジュールとした。捕獲終了の 2 月 9 日には全てのくくりわなの稼働を停止し、翌日までに全て撤去した（表 3）。

表 2. 事業実施場所ごとのわなの設置数

捕獲実施場所	行政区分	わなの設置数(基)
ウトロ東A	(斜里町)	5~8
ウトロ東E	(斜里町)	5
ウトロ東F	(斜里町)	7~10
オシンコシンB	(斜里町)	6~10
オシンコシンC	(斜里町)	10~15
弁財G	(斜里町)	4
春苺古丹	(羅臼町)	20

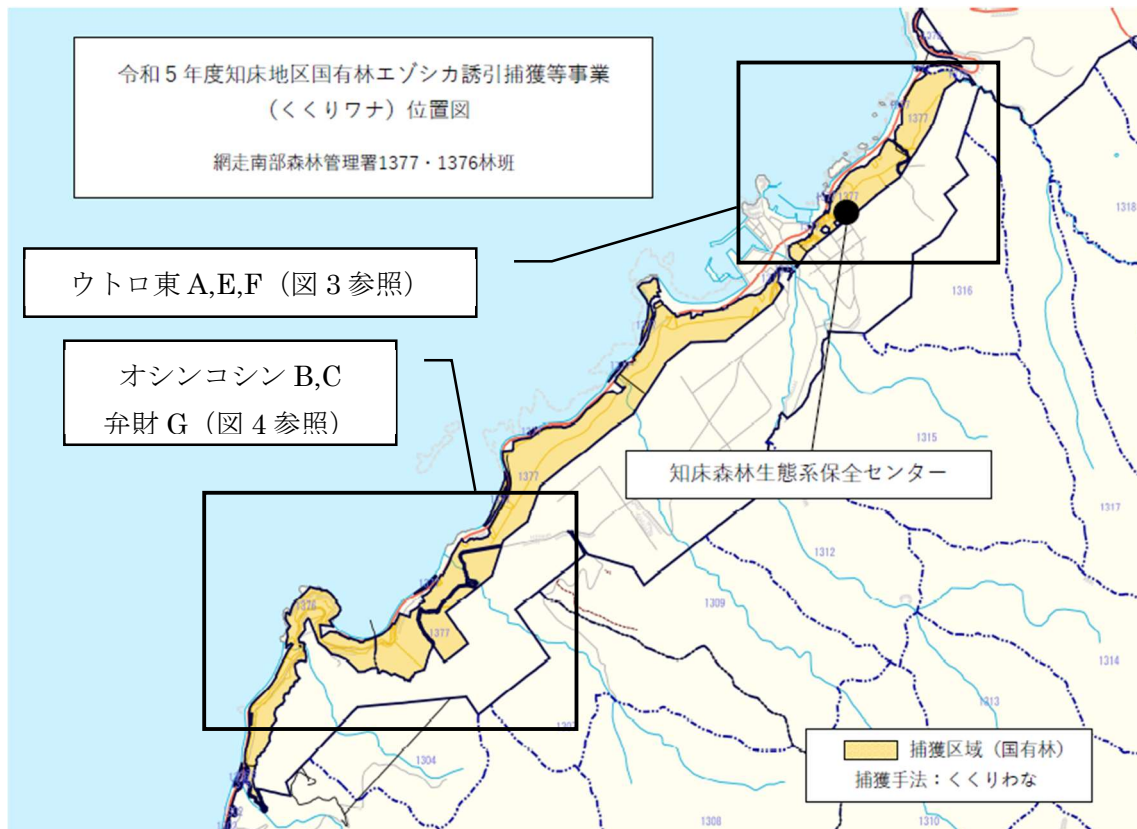


図 1-1. 本事業の斜里町側における実施範囲図。網走南部森林管理署管内 1376 林班および 1377 林班 (黄色に塗られた範囲)。

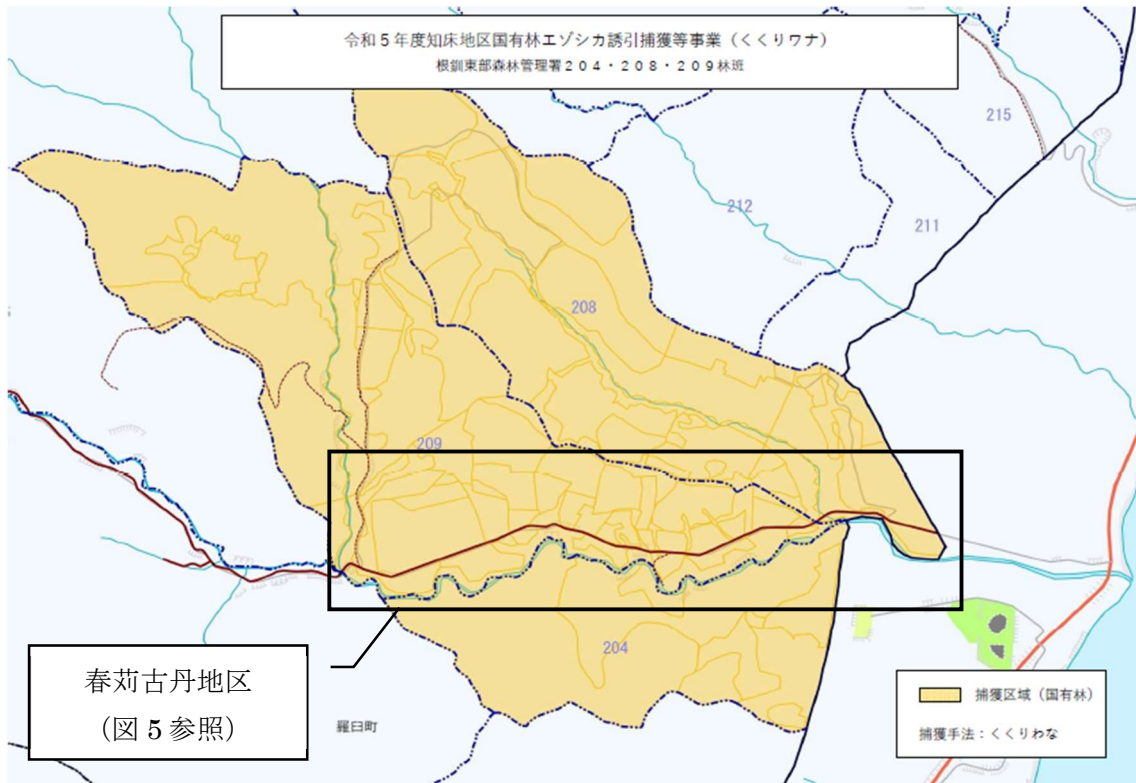


図 1-2. 本事業の羅臼町側における実施範囲図。根釧東部森林管理署管内 204, 208 および 209 林班（黄色に塗られた範囲）。

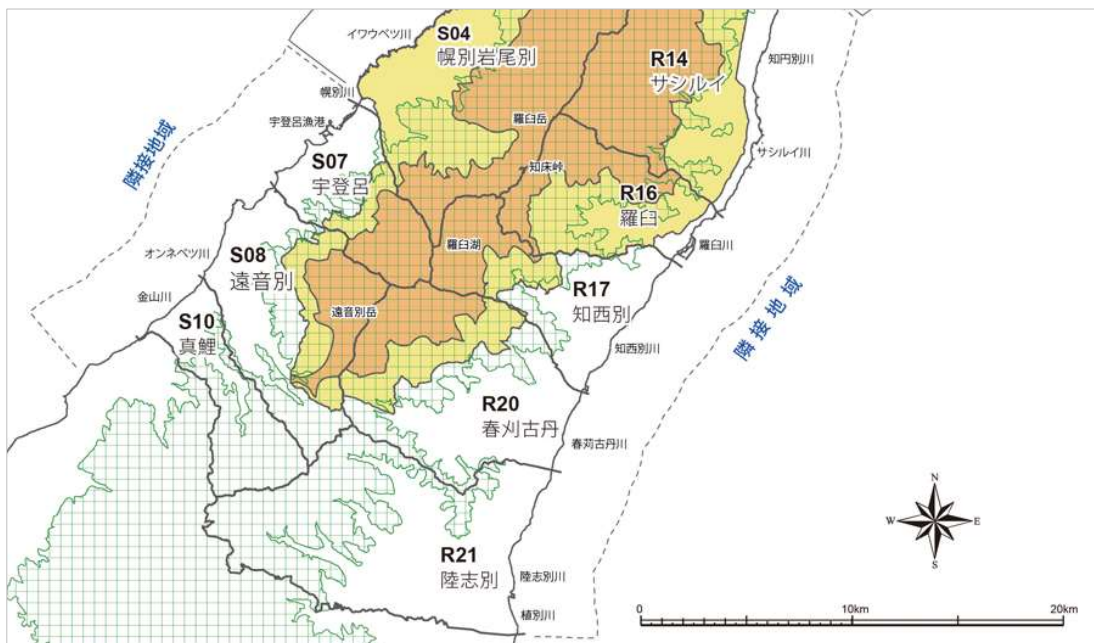


図 2. 本事業の実施範囲の「知床半島エゾシカ管理計画」における位置づけ。「隣接地域」のモニタリングユニット S07 宇登呂, S08 遠音別, R20 春刈古丹に相当する。



図 3. 斜里町のウトロ東地区におけるくくりわな設置位置の概要 (黒丸内)

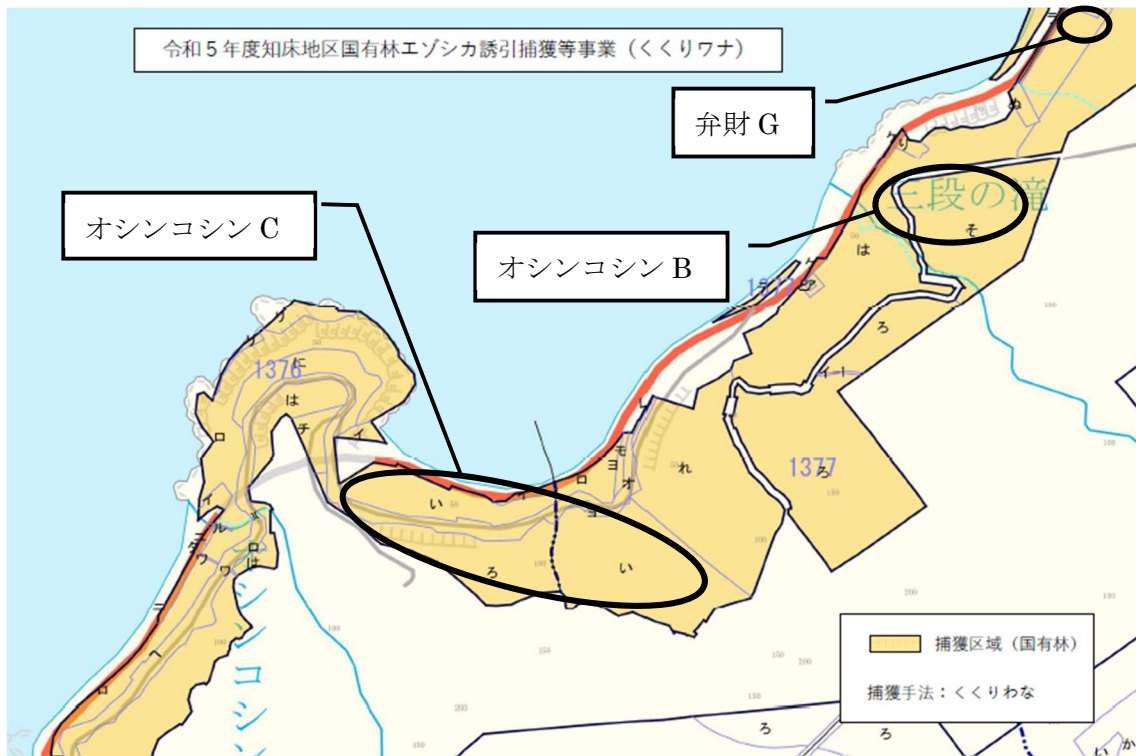


図 4. 斜里町のオシンコシン地区におけるくくりわな設置位置の概要 (黒丸内)



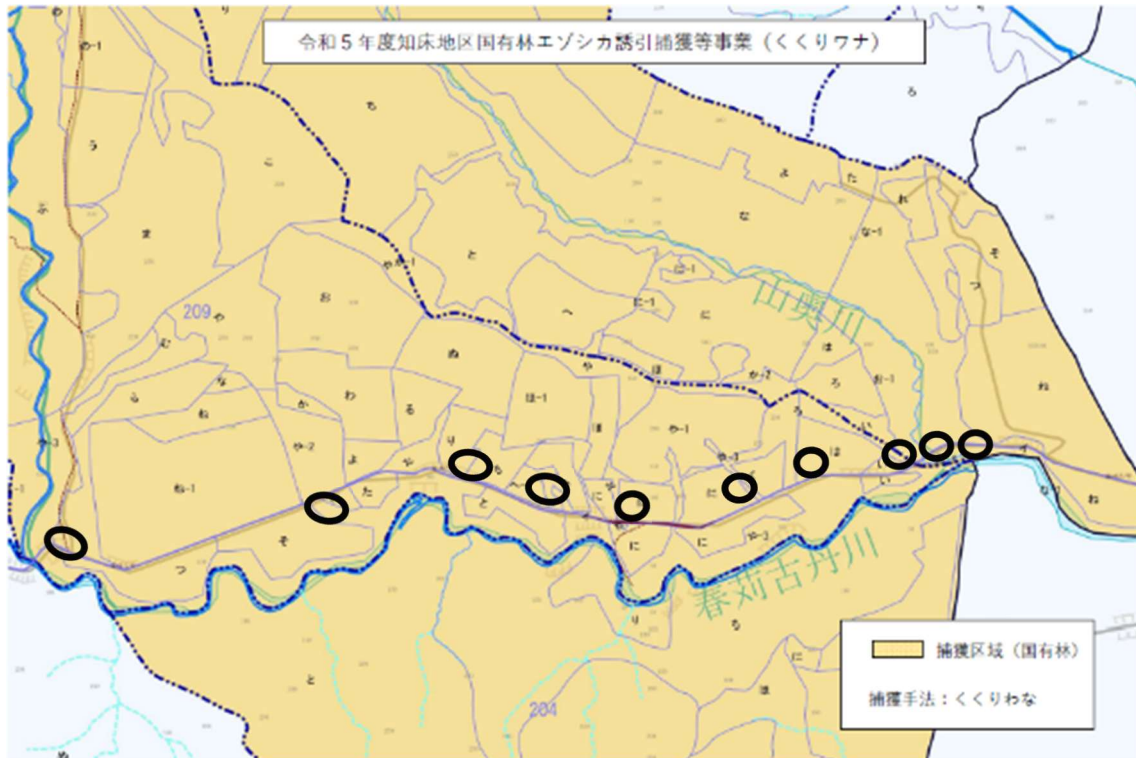


図 5. 春茹古丹地区におけるくくりわなの設置位置の概要（黒丸内）

表 3. 各捕獲実施場所における誘引開始日、捕獲開始日、捕獲終了日および稼働日数

捕獲実施場所	誘引開始日	捕獲開始日	捕獲終了日	わな停止日数	稼働日数	備考
ウトロ東A	1/4	1/5	2/9	3	33	荒天により計3日間稼働停止
ウトロ東E	1/4	1/5	2/2	3	26	荒天により計3日間稼働停止
ウトロ東F	1/4	1/5	2/9	3	33	荒天により計3日間稼働停止
オシンコシンB	1/4	1/5	2/9	4	32	荒天により計4日間稼働停止
オシンコシンC	1/4	1/5	2/9	4	32	荒天により計4日間稼働停止
弁財G	1/18	1/21	1/24	0	4	
春茹古丹	12/11	1/5	2/9	5	31	荒天により計5日間稼働停止

### 2-3. くくりわなによる捕獲の実施方法（詳細）

自動撮影カメラの設置及び餌まき誘引は、春刈古丹では先行して令和5（2023）年12月11日に開始し、ウトロ東外では令和6（2024）年1月4日に開始した。なお、くくりわなの設置についてはヒグマの活動確認調査を行った後に、翌日（同年1月5日）に各地区で一斉に開始した。くくりわな設置以後は、捕獲確認のための見回りを原則毎日実施し、エゾシカの生息状況やわな付近での滞留状況を痕跡やカメラ画像から確認しつつ、毎日または1日おきに誘引餌の補充を行った。2月9日に全てのくくりわなと自動撮影カメラを停止し、2月10日までに全ての資材の撤去を行った。

誘引用の餌には、圧縮マメ科牧草（ルーサンハイボール）を用い、エゾシカが滞留するようにくくりわなの設置地点や付近の獣道上に餌を散布した。

くくりわなは、有限会社栄工業製の足くくりわな（商品名：栄ヒルズ F type）（以下、筒式くくりわな）48基、有限会社ヒットビジネス製の足くくりわな（商品名：アニマルヒット5）（以下、板式くくりわな）12基の合計60基を使用した。両わなは基本的に踏み板部分と、足をくくるワイヤー部分の2つの部品に大きく分かれており、ワイヤーの一方の末端を立ち木などの移動しないものに固定し、もう一方を踏み板部にセットして地面または雪面に設置する。対象動物が踏み板を足で踏み抜くことにより、踏み板にセットされていたワイヤーがバネの力で締まり、足をくくるという仕組みになっている。

筒式くくりわなの踏み板は、内筒と外筒から構成される、高さ16cmの円筒になっており、設置には雪を16cm程度掘削する必要がある（図6, 7, 8）。そのため、本タイプのくくりわなは積雪の深い場所での設置に適しており、積雪の浅い場所での設置には適さない。一方、板式くくりわなの踏み板は高さ約2cmの板状のため（図9）、積雪の浅い場所では設置に問題ないが、積雪の深い場所では踏み板自体が雪に沈んでしまう場合がある。このため、積雪の深い場所では筒式くくりわなを使用し、積雪の浅い場所では板式くくりわなを使用した。



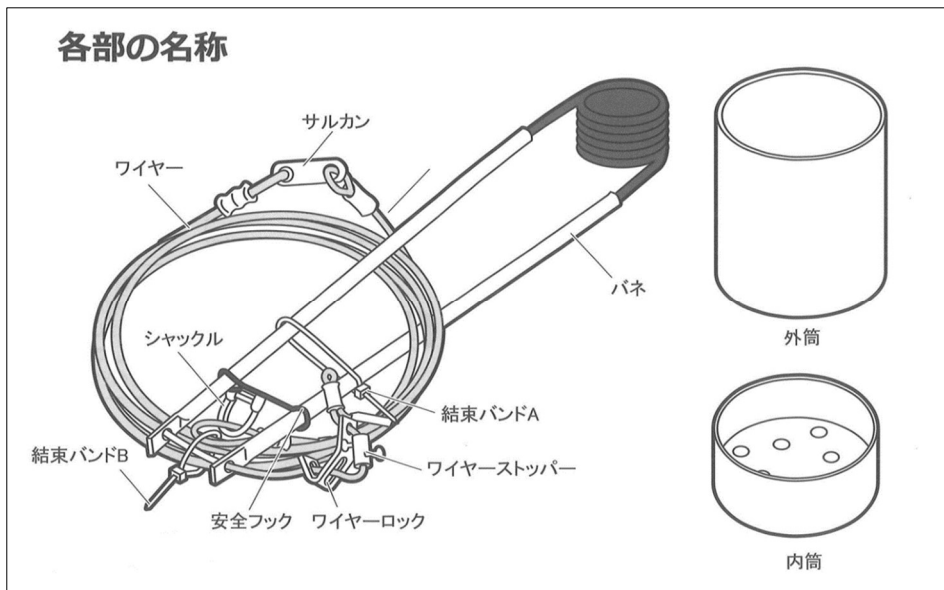


図 6. 筒式くりわな（栄ヒルズ F type）の各部品品の模式図。メーカー説明書より引用。

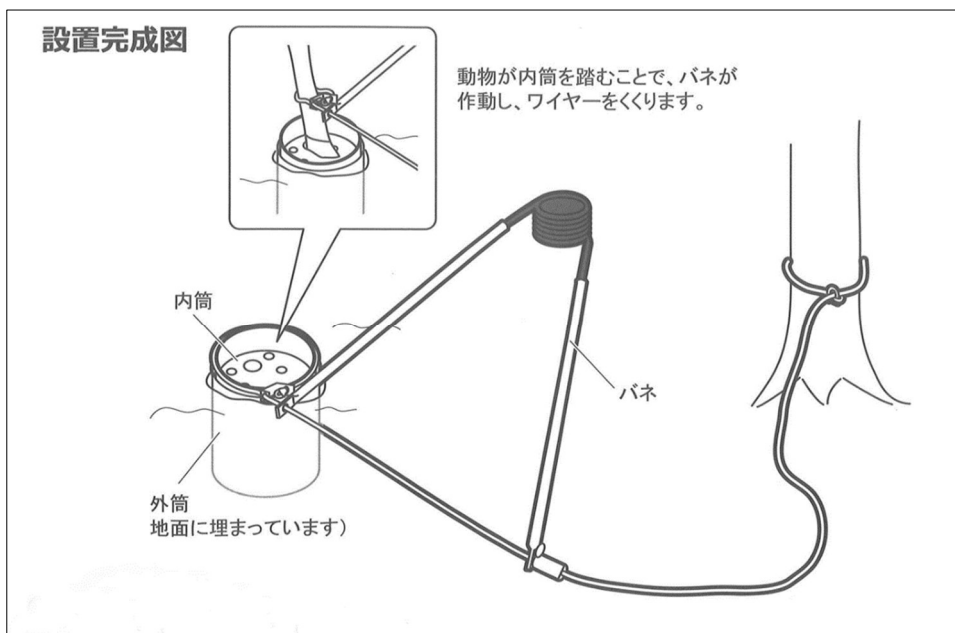


図 7. 筒式くりわな（栄ヒルズ F type）の設置模式図。メーカー説明書より引用。

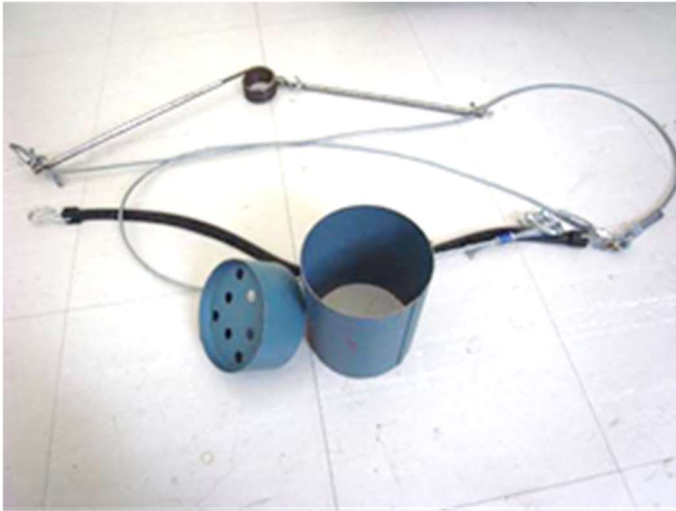


図 8. 本事業で使用した筒式くくりわな (栄ヒルズ F type).



図 9. 本事業で使用した板式くくりわな (アニマルヒット5).

くくりわなは、人目に付きにくく、足跡や食痕等エゾシカの痕跡が多い獣道上に主に設置した。また、捕獲時に安全な作業スペースを確保できる場所を可能な範囲で選定し、かつ捕獲後の搬出が困難である場所を避けて設置した。エゾシカによる獣道の利用状況が変化した場合や捕獲頻度が低下した場合には、エゾシカの痕跡がより多い場所へ適宜くくりわなを移設した。林道や町道の除雪区間よりも奥にわなを設置する場合は、スノーモービルを利用して移動時間の短縮および捕獲個体運搬の労力の軽減を図った。

なお、エゾシカの出現状況を把握するため、各わな周辺には自動撮影カメラを設置した。撮影モードは静止画とした。

くくりわなによる捕獲が確認された場合は、2人1組でロープの輪をエゾシカの頭部に

通した後、ロープによって頭部を牽引して立木に保定しエゾシカを静止させ、原則として電気止めさし機を用いて止め刺しを行った。なお、保定が困難な場合は、銃器による止め刺しを行った。捕獲個体については、個体コードを付したうえで性別、年齢の簡易的区分（0歳、1歳以上）、後足長、処理方法（電気止めさし後施設処理）、処理先（利活用施設名または利活用不適のため廃棄）を個体ごとに記録した。その他にも可能な範囲でオスの場合は角尖数を個体ごとに記録し、カラスプレーによる個体コードのマーキングをして記録写真を撮影した後に利活用施設に引き渡した。捕獲したエゾシカがキツネ等による食害を受けていて利活用できない状態だった場合や、利活用施設側の都合で引き渡せなかった場合は、死体を一時保管後、廃棄物として運搬、処理事業者に引き渡し、有償で処理を依頼した。

### 3. 業務実施結果

本事業では、斜里町側で 55 頭、羅臼町側で 18 頭、計 73 頭のエゾシカを捕獲した（表 4）。雌雄別の内訳はメス 34 頭、オス 39 頭であり、生息個体数を確実に減少させるために重要とされるメス成獣の捕獲数は 19 頭（26.0%）であった。各捕獲実施場所の捕獲頭数及びわなの稼働夜数（トラップナイト：TN）あたりの捕獲効率を表 5 に示した。

表 4. 本事業によるエゾシカの捕獲結果

捕獲実施場所 (地区名)	捕獲個体内訳							合計
	メス 成獣	0歳		オス成獣				
		メス	オス	1尖	2尖	3尖	4尖	
ウトロ東A	4	2	0	2	0	0	1	9
ウトロ東E	0	1	1	1	1	0	0	4
ウトロ東F	3	1	2	2	1	0	1	10
オシンコシンB	6	3	3	2	1	0	0	15
オシンコシンC	4	4	1	2	2	1	3	17
弁財G	0	0	0	0	0	0	0	0
春苺古丹	2	4	5	1	1	0	5	18
合計	19	15	12	10	6	1	10	73

表 5. 本事業の各捕獲実施場所におけるエゾシカ捕獲頭数および捕獲効率（頭/TN）

捕獲実施場所 (地区名)	捕獲頭数	トラップナイト (TN)	捕獲効率 (頭/TN)	わな稼働期間
ウトロ東A	9	226	0.040	1/5~2/9
ウトロ東E	4	125	0.032	1/5~2/2
ウトロ東F	10	254	0.039	1/5~2/9
オシンコシンB	15	298	0.050	1/5~2/9
オシンコシンC	17	370	0.046	1/5~2/9
弁財G	0	12	0.000	1/21~1/24
春苺古丹	18	570	0.032	1/5~2/9
合計	73	1,855		

※ 1基のわなが1夜（1晩）稼働すると、1トラップナイトとなる。

なお、前述の頭数のエゾシカを捕獲するために要した、各わなの見回り回数と給餌回数の実績値は下記の表 6-1、6-2 のとおりである。エゾシカの誘引（給餌）に用いた圧縮マメ科牧草（ルーサンハイパール）の消費量は、計 60 個（斜里側 32 個・羅臼側 28 個）であった。

表 6-1. 本事業における春茹古丹の誘引のみの期間及び給餌回数の実績値

誘引箇所	誘引期間	見回り回数	給餌回数
春茹古丹	12月11日～12月26日	9	8

表 6-2. 本事業における各わなの見回り・給餌回数の実績値

設置箇所	誘引捕獲期間	見回り回数	給餌回数
ウトロ東ほか	1月4日～2月9日	32	29
春茹古丹	1月4日～2月9日	32	20

各わなにおける自動撮影カメラへのエゾシカの写り込み状況（生息状況）として、旬（約 10 日）ごとの最大撮影頭数を表 7 に示した。捕獲期間中にエゾシカが写り込んだ最大頭数は、斜里町側ではウトロ東 A で 1 月上旬及び中旬の 3 頭、ウトロ東 E で 1 月上旬及び下旬の 1 頭、ウトロ東 F で 1 月下旬の 7 頭、オシンコシン B で 1 月上旬及び 2 月上旬に 4 頭、オシンコシン C で 1 月上旬に 5 頭、羅臼町側の春茹古丹では、1 月下旬の 9 頭が最大であった。なお、弁財 G においてはカメラの設置期間が短く、エゾシカの映り込みは確認できなかったが、誘引餌を使用して誘引作業を実施したところ、短期間で誘引餌を食べ尽くされたため、複数頭のエゾシカが周辺に生息している可能性が考えられた。

表 7. 各わなにおける旬ごとのエゾシカの最大撮影頭数

自動撮影カメラ 設置地区	12月			1月			2月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
ウトロ東A	-	-	-	3	3	1	0	-	-
ウトロ東E	-	-	-	1	0	1	-	-	-
ウトロ東F	-	-	-	6	3	7	5	-	-
オシンコシンB	-	-	-	4	2	1	4	-	-
オシンコシンC	-	-	-	5	3	3	1	-	-
弁財G	-	-	-	0	0	0	0	-	-
春茹古丹	-	7	7	7	5	9	6	-	-

捕獲個体は、止めさし後に利活用施設処理したものが 59 頭、利活用不適のため廃棄が 2 頭、利活用施設受け入れ不可のため廃棄としたものが 12 頭であった。捕獲個体のカラースプレーによるマーキングの一例を図 10、各捕獲個体の処理方法に関する詳細は、表 8 に示した。



図 10. カラースプレーによるマーキングの一例 (2024 年 1 月 12 日の捕獲個体)

表 8. 捕獲個体の処理に関する記録

捕獲日	捕獲場所	捕獲手法	マーキング 番号	個体の 属性	後足長		処理方法	処理日	引き渡し先	引き渡し日
					右	左				
1月6日	オシッコシンB	<<りわな	240106B1	オス1尖	47.5	47.5	電気止めさし・施設処理	1月6日	(株)知床エゾシカファーム	1月6日
1月6日	春菊古丹	<<りわな	240106R01	オス4尖	52.0	52.0	電気止めさし・廃棄処分	1月6日	北海レンドリング協同組合	1月6日
1月7日	春菊古丹	<<りわな	240107R01	メス0才	46.5	46.5	電気止めさし・廃棄処分	1月9日	北海レンドリング協同組合	1月9日
1月7日	春菊古丹	<<りわな	240107R02	メス0才	44.0	44.5	電気止めさし・廃棄処分	1月9日	北海レンドリング協同組合	1月9日
1月7日	ウトロ東F	<<りわな	240107F1	オス2尖	51.5	51.0	電気止めさし・施設処理	1月7日	(株)知床エゾシカファーム	1月7日
1月7日	ウトロ東A	<<りわな	240107A1	オス4尖	53.0	52.0	電気止めさし・施設処理	1月7日	(株)知床エゾシカファーム	1月7日
1月7日	ウトロ東E	<<りわな	240107E1	オス1尖	51.0	51.0	電気止めさし・施設処理	1月7日	(株)知床エゾシカファーム	1月7日
1月8日	オシッコシンB	<<りわな	240108B1	メス成獣	49.5	49.0	電気止めさし・施設処理	1月8日	(株)知床エゾシカファーム	1月8日
1月8日	ウトロ東F	<<りわな	240108F1	オス0才	45.5	46.0	電気止めさし・施設処理	1月8日	(株)知床エゾシカファーム	1月8日
1月8日	春菊古丹	<<りわな	240108R01	メス成獣	47.0	47.0	電気止めさし・廃棄処分	1月9日	北海レンドリング協同組合	1月9日
1月8日	春菊古丹	<<りわな	240108R02	オス4尖	52.0	51.5	電気止めさし・廃棄処分	1月9日	北海レンドリング協同組合	1月9日
1月9日	オシッコシンB	<<りわな	240109B1	メス0才	45.0	45.0	電気止めさし・施設処理	1月9日	(株)知床エゾシカファーム	1月9日
1月9日	春菊古丹	<<りわな	240109R01	オス0才	47.0	47.0	電気止めさし・廃棄処分	1月9日	北海レンドリング協同組合	1月9日
1月10日	春菊古丹	<<りわな	240110R01	オス0才	46.5	46.5	電気止めさし・廃棄処分	1月10日	北海レンドリング協同組合	1月10日
1月10日	ウトロ東A	<<りわな	240110A1	オス1尖	51.5	50.5	電気止めさし・施設処理	1月10日	(株)知床エゾシカファーム	1月10日
1月10日	オシッコシンC	<<りわな	240110C1	メス成獣	49.0	48.5	電気止めさし・施設処理	1月10日	(株)知床エゾシカファーム	1月10日
1月11日	ウトロ東A	<<りわな	240111A1	メス成獣	47.0	47.5	電気止めさし・施設処理	1月11日	(株)知床エゾシカファーム	1月11日
1月11日	春菊古丹	<<りわな	240111R01	オス0才	41.0	41.0	電気止めさし・施設処理	1月11日	(株)IN-U	1月11日
1月11日	春菊古丹	<<りわな	240111R02	オス0才	48.0	47.0	電気止めさし・施設処理	1月11日	(株)IN-U	1月11日
1月12日	オシッコシンB	<<りわな	240112B1	メス0才	43.5	44.0	電気止めさし・施設処理	1月12日	(株)知床エゾシカファーム	1月12日
1月12日	オシッコシンC	<<りわな	240112C1	オス1尖	49.0	50.0	電気止めさし・施設処理	1月12日	(株)知床エゾシカファーム	1月12日
1月12日	ウトロ東E	<<りわな	240112E1	メス0才	45.0	45.0	電気止めさし・施設処理	1月12日	(株)知床エゾシカファーム	1月12日
1月12日	ウトロ東E	<<りわな	240112E2	オス0才	46.5	46.0	既に死亡・廃棄処分	2月14日	北海レンドリング協同組合	2月14日
1月13日	春菊古丹	<<りわな	240113R01	メス0才	44.5	44.5	電気止めさし・廃棄処分	1月15日	北海レンドリング協同組合	1月15日
1月14日	春菊古丹	<<りわな	240114R01	メス0才	43.5	42.5	電気止めさし・廃棄処分	1月15日	北海レンドリング協同組合	1月15日
1月14日	オシッコシンC	<<りわな	240114C1	メス0才	42.5	43.0	電気止めさし・施設処理	1月14日	(株)知床エゾシカファーム	1月14日
1月15日	オシッコシンB	<<りわな	240115B1	メス成獣	50.0	49.0	電気止めさし・施設処理	1月15日	(株)知床エゾシカファーム	1月15日
1月15日	春菊古丹	<<りわな	240115R01	オス4尖	54.0	54.0	電気止めさし・施設処理	1月15日	(株)IN-U	1月15日
1月15日	春菊古丹	<<りわな	240115R02	オス2尖	53.5	53.5	電気止めさし・施設処理	1月15日	(株)IN-U	1月15日
1月16日	オシッコシンC	<<りわな	240116C1	オス1尖	46.0	47.0	既に死亡・廃棄処分	2月14日	北海レンドリング協同組合	2月14日
1月16日	春菊古丹	<<りわな	240116R01	メス成獣	48.0	48.5	電気止めさし・廃棄処分	1月18日	北海レンドリング協同組合	1月18日
1月17日	ウトロ東E	<<りわな	240117E1	オス2尖	51.0	51.0	電気止めさし・施設処理	1月17日	(株)知床エゾシカファーム	1月17日
1月17日	オシッコシンC	<<りわな	240117C1	オス4尖	53.0	53.0	電気止めさし・施設処理	1月17日	(株)知床エゾシカファーム	1月17日
1月18日	オシッコシンC	<<りわな	240118C1	メス0才	44.0	44.0	電気止めさし・施設処理	1月18日	(株)知床エゾシカファーム	1月18日
1月19日	春菊古丹	<<りわな	240119R01	オス0才	43.5	43.5	電気止めさし・廃棄処分	1月19日	北海レンドリング協同組合	1月19日
1月19日	春菊古丹	<<りわな	240119R02	オス4尖	52.5	52.5	電気止めさし・施設処理	1月19日	(株)IN-U	1月19日
1月19日	ウトロ東A	<<りわな	240119A1	メス成獣	49.0	49.0	電気止めさし・施設処理	1月19日	(株)知床エゾシカファーム	1月19日
1月20日	ウトロ東A	<<りわな	240120A1	メス0才	45.0	45.0	電気止めさし・施設処理	1月20日	(株)知床エゾシカファーム	1月20日
1月21日	ウトロ東A	<<りわな	240121A1	メス0才	44.0	44.0	電気止めさし・施設処理	1月21日	(株)知床エゾシカファーム	1月21日
1月21日	オシッコシンC	<<りわな	240121C1	オス4尖	52.5	53.5	電気止めさし・施設処理	1月21日	(株)知床エゾシカファーム	1月21日
1月21日	オシッコシンC	<<りわな	240121C2	メス0才	45.5	45.5	電気止めさし・施設処理	1月21日	(株)知床エゾシカファーム	1月21日
1月21日	オシッコシンB	<<りわな	240121B1	メス0才	40.0	40.0	電気止めさし・施設処理	1月21日	(株)知床エゾシカファーム	1月21日
1月21日	オシッコシンB	<<りわな	240121B2	メス成獣	48.5	48.5	電気止めさし・施設処理	1月21日	(株)知床エゾシカファーム	1月21日
1月22日	オシッコシンB	<<りわな	240122B1	メス成獣	46.5	46.5	電気止めさし・施設処理	1月22日	(株)知床エゾシカファーム	1月22日
1月23日	春菊古丹	<<りわな	240123R01	オス1尖	49.5	49.0	電気止めさし・廃棄処分	1月29日	北海レンドリング協同組合	1月29日
1月23日	オシッコシンC	<<りわな	240123C1	メス成獣	46.5	46.5	電気止めさし・施設処理	1月23日	(株)知床エゾシカファーム	1月23日
1月23日	オシッコシンF	<<りわな	240123F1	メス成獣	50.0	50.0	電気止めさし・施設処理	1月23日	(株)知床エゾシカファーム	1月23日
1月24日	オシッコシンB	<<りわな	240124B1	オス0才	41.5	41.5	電気止めさし・施設処理	1月24日	(株)知床エゾシカファーム	1月24日
1月24日	オシッコシンC	<<りわな	240124C1	オス2尖	50.0	50.0	電気止めさし・施設処理	1月24日	(株)知床エゾシカファーム	1月24日
1月30日	オシッコシンC	<<りわな	240130C1	メス成獣	49.0	49.0	電気止めさし・施設処理	1月30日	(株)知床エゾシカファーム	1月30日
1月31日	ウトロ東F	<<りわな	240131F1	オス1尖	49.5	49.0	電気止めさし・施設処理	1月31日	(株)知床エゾシカファーム	1月31日
2月1日	オシッコシンB	<<りわな	240201B1	オス0才	45.0	45.0	電気止めさし・施設処理	2月1日	(株)知床エゾシカファーム	2月1日
2月1日	オシッコシンB	<<りわな	240201B2	オス2尖	47.5	47.5	電気止めさし・施設処理	2月1日	(株)知床エゾシカファーム	2月1日
2月1日	ウトロ東F	<<りわな	240201F1	オス1尖	50.5	50.0	電気止めさし・施設処理	2月1日	(株)知床エゾシカファーム	2月1日
2月2日	オシッコシンC	<<りわな	240202B1※	オス2尖	53.0	53.0	電気止めさし・施設処理	2月2日	(株)知床エゾシカファーム	2月2日
2月2日	オシッコシンB	<<りわな	240202B1	オス1尖	47.0	47.0	電気止めさし・施設処理	2月2日	(株)知床エゾシカファーム	2月2日
2月2日	オシッコシンB	<<りわな	240202B2	メス成獣	50.0	-	電気止めさし・施設処理	2月2日	(株)知床エゾシカファーム	2月2日
2月3日	ウトロ東F	<<りわな	240203F1	オス4尖	49.0	49.5	電気止めさし・施設処理	2月3日	(株)知床エゾシカファーム	2月3日
2月3日	オシッコシンC	<<りわな	240203C1	オス0才	45.0	45.0	電気止めさし・施設処理	2月3日	(株)知床エゾシカファーム	2月3日
2月3日	オシッコシンB	<<りわな	240203B1	オス0才	43	43	電気止めさし・施設処理	2月3日	(株)知床エゾシカファーム	2月3日
2月4日	ウトロ東F	<<りわな	240204F1	オス0才	44	44	電気止めさし・施設処理	2月4日	(株)知床エゾシカファーム	2月4日
2月4日	オシッコシンC	<<りわな	240204C1	オス4尖	51.0	51.0	銃止めさし・施設処理	2月4日	(株)知床エゾシカファーム	2月4日
2月5日	オシッコシンC	<<りわな	240205C1	メス成獣	48.0	47.5	電気止めさし・施設処理	2月5日	(株)知床エゾシカファーム	2月5日
2月5日	ウトロ東F	<<りわな	240205F1	メス成獣	45.0	46.0	電気止めさし・施設処理	2月5日	(株)知床エゾシカファーム	2月5日
2月6日	春菊古丹	<<りわな	240206R01	オス4尖	54.0	54.0	電気止めさし・施設処理	2月6日	(株)IN-U	2月6日
2月6日	オシッコシンC	<<りわな	240206C1	メス0才	45.0	45.0	電気止めさし・施設処理	2月6日	(株)知床エゾシカファーム	2月6日
2月6日	ウトロ東A	<<りわな	240206A1	オス1尖	51.0	51.5	電気止めさし・施設処理	2月6日	(株)知床エゾシカファーム	2月6日
2月7日	オシッコシンC	<<りわな	240207C1	オス3尖	51.5	51.0	電気止めさし・施設処理	2月7日	(株)知床エゾシカファーム	2月7日
2月7日	オシッコシンB	<<りわな	240207B1	メス成獣	49.0	49.0	電気止めさし・施設処理	2月7日	(株)知床エゾシカファーム	2月7日
2月9日	ウトロ東A	<<りわな	240209A1	メス成獣	49.0	48.5	電気止めさし・施設処理	2月9日	(株)知床エゾシカファーム	2月9日
2月9日	ウトロ東F	<<りわな	240209F1	メス0才	44.0	43.5	電気止めさし・施設処理	2月9日	(株)知床エゾシカファーム	2月9日
2月9日	ウトロ東F	<<りわな	240209F2	メス成獣	47.0	46.5	電気止めさし・施設処理	2月9日	(株)知床エゾシカファーム	2月9日
2月9日	ウトロ東A	<<りわな	240209F3	メス成獣	49.0	48.5	電気止めさし・施設処理	2月9日	(株)知床エゾシカファーム	2月9日

※2月2日にオシッコシンCにて捕獲された個体のマーキング番号は本来240202C1であるが、誤って240202B1とマーキングしている。

## 4. 考察

### 4-1. くくりわなについて、より効果的に捕獲を行うための課題と解決策

#### 見回りや誘引効果について

本事業では、くくりわなによるエゾシカ捕獲のための作業を1月4日から2月9日（春苧古丹地区は誘引作業のみ12月11日から開始）までの期間に、斜里町側のウトロ東外では35日間、羅臼町側の春苧古丹では33日間実施した。業務仕様書に記載された捕獲作業日数は1月4日から2月9日までのうち土、日、祝日を除く26日間であったが、効率的にくくりわなを稼働させることを優先し、監督職員と協議のうえ、わなの見回りを原則毎日実施した。

エゾシカを誘引餌によって効率良く誘引して捕獲を実施するためには、エゾシカの誘引状況や積雪状況を毎日確認しつつ、捕獲場所に設置した誘引餌をできるだけ切らさないようにすることや、わなを適切な場所にこまめに移設することが重要である。しかし、業務仕様書に記載された捕獲期間と見回り等の回数は、捕獲期間中にくくりわなを週休2日で稼働させることを想定した回数となっており、その場合は誘引餌によるエゾシカの誘引効果が途切れてしまう可能性がある。また、くくりわなを毎日稼働させた場合は1週間あたりの捕獲機会が7トラップナイト（以下、TNとする）であるのに対し、週休2日で稼働させた場合は4TNに減少してしまうことに加え、毎週わなを停止、再稼働させる労力が追加的に必要となるため、効率的ではない。冬期のくくりわな捕獲事業では、効率良く捕獲を実施するため、捕獲作業の実施期間中には原則毎日見回りや誘引状況の確認を実施するように見回り回数などを設定することが望ましい。

#### 降雪条件について

春苧古丹地区においては、捕獲頭数が18頭にとどまり、目標頭数である20頭には達しなかった。理由として、以下3つの仮説を挙げることができる。

- ① 前年度の捕獲頭数が多く、シカが春苧古丹林道付近にいなかった
- ② 誘引開始が遅れ、餌に対し十分なシカの学習機会が得られなかった
- ③ 2024年1月下旬に発生した大規模な積雪により、シカが春苧古丹林道から大きく移動した

まず①については、2022年度事業の捕獲頭数が多かったのは、2021年度事業における捕獲頭数が6頭と極端に少なかったため、2021年度の未捕獲個体を捕獲したにすぎず、自動撮影カメラの写り込み結果や目撃状況から、同地区には捕獲個体を含めて30~40頭程度のシカが行動していたと考えられ、この仮説は支持されない。

②については、誘引開始からまとまった降雪（降雪深10cm以上）が発生するまでの期間が2022年は17日間（誘引開始12月1日・降雪12月18日）あったのに対し、2023年は6日間（誘引開始12月11日・降雪12月17日）であり、シカに対し十分な学習期間が



与えられなかった可能性がある。ただし、自動撮影カメラへの写り込み頭数から、捕獲地点付近で目標達成に十分な頭数の未捕獲個体が行動していたことは明らかであり、この仮説も支持されない。

大きな影響があったと考えられるのは、③である。1月23日から26日にかけて、羅臼町では荒天が続き、累計降雪深90cmの降雪が発生した。天気が回復した1月27日において、林道周辺では春苧古丹川方向へ斜面を下るシカの足跡が各所で発見された。さらに2月1日、春苧古丹川の右岸側斜面において、それまで見られなかった、20～30頭のシカの集団が目視によって確認された(図11)。このことから、春苧古丹川左岸側から右岸側へ大規模なシカの移動が発生したと考えられる。実際、この荒天より前の1月6日から1月23日までの17日間で17頭を捕獲したのに対し、1月27日から2月9日までの14日間における捕獲は1頭と偏りが見られ、大規模な降雪により捕獲実施地域で行動する個体が消失し、捕獲が伸びなかったと考えられる。なお、この降雪後もシカの存在が確認されたのは、春苧古丹川支流の山奥川左岸周辺であった。この地域では、2021年度事業において自動撮影カメラの写り込み結果から、林道北側にある台地上にエゾシカ集団が存在することが確認されている。この集団は降雪があっても右岸側に移動しない可能性があるが、台地上へのアプローチが急斜面である事から、捕獲作業を実施するには課題が残る。

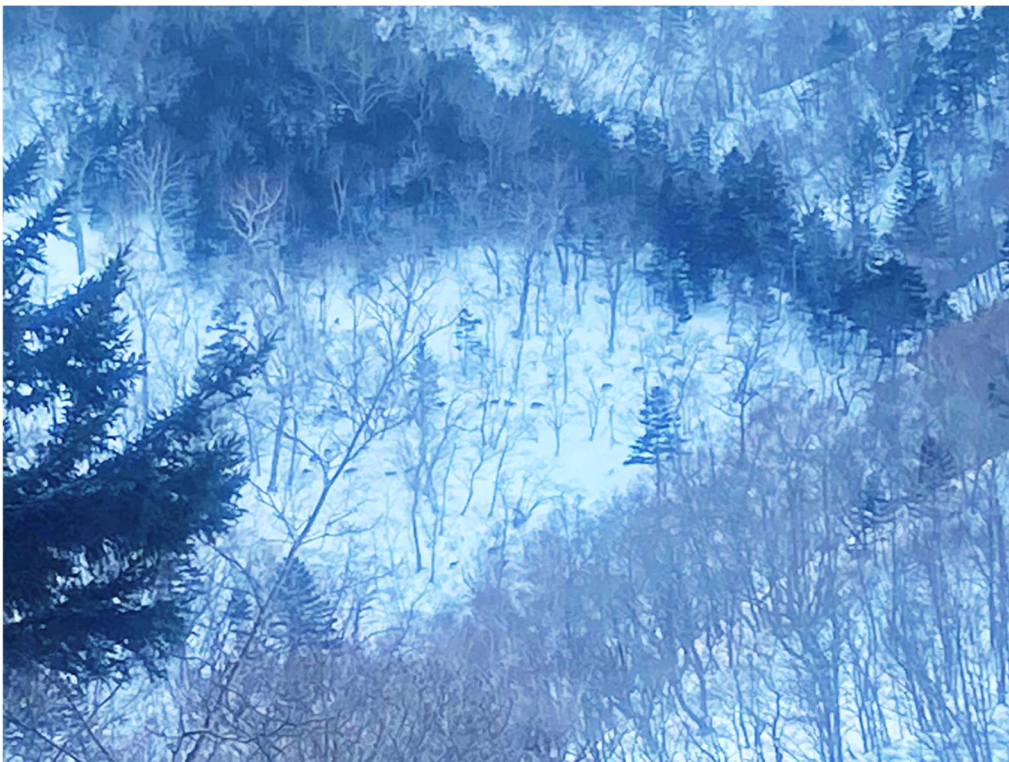


図 11. 2月1日、春苧古丹右岸側の斜面に現れた20～30頭規模のシカの群れ

### 捕獲場所や範囲について

本事業においてくくりわなを設置した場所は、斜里町側及び羅臼町側ともに昨年度と同一、若しくは近接した場所であったが、ウトロ東地区については、捕獲効率が 0.038 (23 頭/605 TN) と昨年度の 0.025 (19 頭/770 TN) を大きく上回った。また、オシンコシン地区については捕獲効率が 0.048 (32 頭/668 TN) となり、昨年度の 0.046 (39 頭/845 TN) をわずかに上回った。斜里町側は全体的にエゾシカの捕獲効率が昨年度を上回ったが、その要因の一つとしては、エゾシカの天然の餌資源であるミズナラの凶作による影響が考えられる。昨年度はミズナラの堅果が豊作であったため、誘引餌の誘引効果が低かった可能性があったが、今年度は凶作であったため天然の餌資源が少なく、昨年度よりもエゾシカが誘引餌に誘引されやすかったと考えられる。また、エゾシカの捕獲効率は当年の積雪量とそれに伴うエゾシカの生息状況に大きく左右されると考えられる。しかし、積雪量の予測は困難であるため、基本的にはエゾシカの生息状況に合わせてくくりわなをこまめに移設することによって捕獲効率を維持していくことが重要である。そのためには、捕獲作業が実施可能な場所の候補地を、事前に複数箇所用意しておく必要がある。また、捕獲作業を行う際には、通行に土地所有者の了承が必要な場合や、スノーモービルの使用が必要な場合があるため、土地所有者との事前調整や搬出路の確認、整備作業などの十分な事前準備が必要である。

春苺古丹地区においては、2021 年度から 2023 年度にかけての本事業の捕獲結果及び自動撮影カメラの写り込み状況から、あくまで推測であるが、春苺古丹林道周辺のエゾシカは大きく分けて二つのグループ、すなわち①山奥川周辺の林道北側を行動圏とする集団と、②囲いわな設置地点から緑栄橋周辺の区間を行動圏とする集団に分かれると考えられる(図 12)。また、①の集団は林道まで降りてくる個体が少ない一方で降雪による右岸側への移動は行わず、②の集団は誘引によって林道周辺を利用する個体を増やすことができる一方、降雪の影響でシカが移動し、誘引効果が消失するという特徴がある。今年度事業においては、②の行動圏でのわな設置・誘引が中心だったことから、大規模降雪とシカの移動がもたらす負の影響を大きく受けてしまったと考えられる。



図 12. 推定される春苧古丹地区のシカの行動グループ

#### 4-2. 次年度以降の捕獲計画に関する課題、提案

##### 捕獲個体の処理について

本事業によるエゾシカの捕獲個体 73 頭のうち、利活用に供することができたのは 59 頭 (80.8 %) であり、廃棄処分となる割合が 2 割以下となった。(表 9)。本事業では、羅臼町側の春荊古丹地区における捕獲個体の廃棄がほとんどを占めており、春荊古丹における捕獲個体 18 頭のうち 12 頭 (66.7 %) が廃棄となった。これは、捕獲個体の搬出先である利活用業者が休業日であったり、日々の受け入れ上限を超えていたりするなど、捕獲個体を受け入れられない状況が多かったためである。羅臼町内には、本事業のように不定期に生じる捕獲個体を受入れることが可能な、比較的規模の大きい有効活用施設がなく、また解体や冷凍など、一次処理を行う施設も整備されていないことが、利活用を進める上では課題である。

表 9. 本事業における捕獲個体の処理方法 (町別)

	斜里町側		羅臼町側		計	
	頭数	%	頭数	%	頭数	%
利活用	53	96.4%	6	33.3%	59	80.8%
廃棄	2	3.6%	12	66.7%	14	19.2%
合計	55		18		73	

##### 誘引捕獲の実施期間について

本事業では、誘引捕獲期間が昨年度事業よりも短縮されており、2 月上旬で捕獲作業が終了した。しかし、斜里町側の捕獲区域においては、過去の同様の事業から、積雪量が多くなるほど誘引餌によるエゾシカの誘引効果が高まるということが分かっており、また、積雪期の後半になるほど、エゾシカにとって天然の餌資源が減少し、誘引餌によるエゾシカの誘引効果が高まる事が予測される。そのため、誘引捕獲期間を短縮する場合、期間の終了時期を変えずに期間の開始時期を遅くして短縮した方が、捕獲効率の高い環境で捕獲作業を実施することができると考えられる。

羅臼町側の春荊古丹地区においては前年度と同様に、降雪前の時期から定期的な餌の撒布を実施した。エゾシカは降雪前でも撒布した餌に餌付き、継続的に捕獲実施場所付近を利用していた。今後も同様に降雪前から餌の撒布を実施することで、エゾシカを捕獲実施場所付近に誘導し、捕獲効率を高めることができる可能性がある。ただし、注意事項として、以下の 2 点が挙げられる。

- ① エゾシカに対する餌の誘引効果は、その年にエゾシカが利用できる「天然の餌資源量」

- に影響を受けると考えられるため、年によっては誘引効果が弱まる可能性があること
- ② 降雪前から誘引作業を実施していても、突発的な大雪によりシカの行動が急変し、エゾシカが捕獲実施場所を利用しなくなる可能性があること

餌資源の豊凶も天候変化も、いずれも自然現象であり、事前予測やコントロールは大変困難であるため、捕獲頭数を維持するための対策としては「1日当たりの捕獲期待値を上げる」か「捕獲日数を増やす」かの2択である。捕獲日数の上限が決まっている現状としては、前者を選択すべきであり、わなの数及びわなの稼働場所の数を増やすとともに、十分な量の餌を撒布して誘引効果を確保し、好条件がそろった際の捕獲頭数を伸ばせるような工夫が必要と考える。また、誘引状況が悪化した場合に備えて、エゾシカの移動先や、春荊古丹川左岸に替わる代替捕獲地についても事前に調査しておくことが重要である。

#### 作業道の整備について

羅臼町側の捕獲実施場所である春荊古丹林道には、入口ゲートから約2kmの地点に小さな沢が存在する。この沢は林道の下を通る横断管の流入口が埋まっているため林道上を越流しているほか、冬期でも凍結せず林道の積雪を溶かすため、作業に使用するスノーモービル等の通行に支障をきたす事態が今後も想定される。一方で、この地点から奥にはエゾシカの捕獲実施場所が複数か所存在しており、いずれも多数の痕跡や自動撮影カメラへの写りこみを確認していることから、今後捕獲エリアを広げて実施するためには、搬入搬出路となる林道の環境整備も併せて実施する必要がある。

斜里町側の捕獲実施場所については、本事業では作業道が除雪されたことにより、捕獲実施場所へ車両でアプローチ可能であり、作業効率が良かった。しかし、除雪業者の都合や、急激な積雪により迅速に除雪が実施されず、捕獲作業を実施できない場合も想定が必要である。そのような場合に備えて、スノーモービルの通行許可を予め得ておくことで、除雪の有無にかかわらずに捕獲作業を実施することができる。そのほか、過去と同類事業である「令和元年度知床におけるエゾシカ誘引捕獲等事業」などで使用されていた弁財圍いわな周辺においてもエゾシカの生息が確認されるようになってきたことから、同地区においても除雪を行う事でアプローチが可能になれば、現状よりもくくりわなの捕獲エリアを広げることができる。

また、オシンコシンB及びオシンコシンCは、現在は使用されていない古い町道でつながっているが、途中にある小さな川や道路の崩落により車両やスノーモービルでは通行できない状態となっている。通行できなくなっている区間は可猟区と隣接しているものの、ほとんどは鳥獣保護区に指定されており、一般狩猟者があまり利用しないエリアであるため、高密度でエゾシカが生息していると考えられる場所である。春荊古丹林道と同様、適切な通行環境を確保できれば、さらにエゾシカの捕獲機会を増やすことができると考える。

## 参考文献

- 北海道森林管理局 2011. 平成 22 年度保護林等整備・保全対策事業（囲いわなによるエゾシカの捕獲）報告書. 株式会社 北雄組, 13pp.
- 北海道森林管理局 2012. 平成 23 年度世界遺産保全緊急対策事業（囲いわなによるエゾシカの捕獲）報告書. 知床財団, 21pp.
- 北海道森林管理局 2013. 知床世界自然遺産隣接地域における囲いわなによるエゾシカの生体捕獲事業報告書. 公益財団法人 知床財団, 51pp.
- 環境省 2016. 平成 27 年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団, 38pp.
- 北海道森林管理局 2016. 平成 27 年度斜里町ウトロ地区エゾシカ捕獲事業 報告書. 公益財団法人 知床財団, 87pp.
- 北海道森林管理局 2016. 平成 27 年度斜里町真鯉地区エゾシカ捕獲事業 報告書. 公益財団法人 知床財団, 85pp.
- 北海道森林管理局 2017. 平成 28 年度斜里町内国有林エゾシカ捕獲等事業（囲いわな等）第 2 号 報告書. 公益財団法人 知床財団, 228pp.
- 北海道森林管理局 2018. 平成 29 年度知床におけるエゾシカ捕獲等事業（囲いわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 222pp.
- 北海道森林管理局 2018. 網走管内国有林エゾシカ誘引捕獲事業（平成 30 年度春季囲いわな）報告書. 公益財団法人 知床財団, 40pp.
- 北海道森林管理局 2019. 平成 30 年度知床におけるエゾシカ捕獲等業務（囲いわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 66pp.
- 北海道森林管理局 2020. 令和元年度知床におけるエゾシカ誘引捕獲等事業（囲いわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 38pp.
- 北海道森林管理局 2021. 令和 2 年度知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（囲いわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 37pp.
- 北海道森林管理局 2022. 令和 3 年度知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（くくりわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 31pp.
- 北海道森林管理局 2023. 令和 4 年度知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（くくりわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 32pp.



## 作業実施状況等の記録写真（抜粋）

斜里町側



くくりわなの設置作業（2024年1月5日、ウトロ東A）



捕獲個体の電気止め刺し機による止め刺し作業（2024年2月6日、ウトロ東A）



捕獲個体の保定作業（2024年1月9日、オシンコシンB）



自動撮影カメラの確認（2024年1月6日, オシンコシン B）



捕獲個体のマーキング後（2024年1月21日, オシンコシン B）



捕獲個体の銃による止め刺し作業（2024年2月4日, オシンコシン C）





くくりわなの点検作業 (2024年1月28日, オシンコシンC)



くくりわなで捕獲された状態のエゾシカ (2024年1月12日, ウトロ東E)



注意書き設置作業 (2024年1月5日, ウトロ東E)



くくりわなの点検作業 (2024年1月6日, ウトロ東 F)



注意書き案内看板 (2024年1月5日, ウトロ東 F)



捕獲個体のマーキング後 (2024年1月8日, ウトロ東 F)



くくりわなの餌まき作業 (2024年1月18日, 弁財G)



くくりわなの点検作業 (2024年1月23日, 弁財G)



羅臼町側



餌まき誘引作業（2023年12月11日，春蒞古丹）



捕獲個体の保定作業（2024年1月6日，春蒞古丹）



捕獲個体の電殺作業（2024年1月8日，春蒞古丹）



処理施設への引き渡し作業（2024年1月9日, 標津町内）



有効活用施設への引き渡し作業（2024年2月6日, 中標津町内）



令和 5 年度 林野庁 北海道森林管理局 委託事業

事業名：令和 5 年度知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（くくりワナ）

事業期間：令和 5 年 12 月 1 日 ～令和 6 年 3 月 8 日

事業実施者（受託者）：公益財団法人 知床財団

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 5 3 1

知床自然センター内



リサイクル適性の表示：印刷用の紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [A ランク] のみを用いて作成しています。